

令和元年5月13日現在

機関番号：32621

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2018

課題番号：16K13187

研究課題名(和文) 間芸術性的手法：文学・映画・演劇・展覧会の理論と実践

研究課題名(英文) Methods of Intermediation: theory and practice of literature, cinema, theatre and exhibition

研究代表者

村田 真一 (Murata, Shinichi)

上智大学・外国語学部・教授

研究者番号：00265555

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：間芸術性(芸術の媒介性)の概念を用いて、現代の文学・映画・演劇・デザインのジャンル間で交わる要素の理論的・実践的研究を日本・ウクライナ・ロシア・セルビア・オランダの研究者と芸術家の参画を得て行ない、間芸術性と20世紀芸術に関する国際セミナー開催と出版物(『アヴァンギャルド詩学の間芸術性』、2018年、ベオグラード大学出版部)により、その国際的研究の成果をまとめた。これにより、内外の研究者のみならず、学生・院生や芸術文化に関心のある一般の人々にも、新しい芸術研究の視点と手法を提示することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

比較的新しい概念である間芸術性の意味を明確にしたうえで、それをより発展的に捉え、ロシアやウクライナのアヴァンギャルド芸術作品の研究に斬新な視点を提供した点に主な学術的意義がある。社会的意義として挙げられるのは、研究者のみならず、国際セミナーの開催や出版物を通じて、学生や院生、一般の人々に研究成果を公開したこと、これにより国際共同研究そのものの必要性や重要性を広く伝えられたことなどである。

研究成果の概要(英文)： This international academic project aimed to show the usefulness of intermediation in studying literature, cinema, theatre and exposition. It revealed the necessity and actual opportunity to develop the concept of intermediation in order to investigate the common and distinctiveness in the artistic texts of several levels. The main focus of the project was concentrated on the art products of contemporary Russian and Ukrainian Avant-guard arts. As a result, the project team published a book entitled "Intermediation Poetica of Avant-guard", supported by JSPS, Sophia University(Japan) and the University of Belgrade(Serbia).

研究分野：ロシア演劇・ロシア文化

キーワード：間芸術性 文学 映画 演劇 展覧会 アヴァンギャルド

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

芸術は受容されて初めて完成するという視点に立ったテキスト受容の研究に関して、ロシアとウクライナの前衛芸術のテキストを翻案と受容の関係性において捉える研究の展開には、方法的・歴史的に十分意義があることを確認した。

上述の考え方を基本概念に、内外の芸術研究者・実践家と討議を重ね、翻案理論の構築と実践を一体化させる試みを、日本・ウクライナ・ロシア・オランダの研究者および芸術家が協働して進め、ロシアとウクライナのアヴァンギャルドの文学作品が演劇・美術・映画作品に翻案され変容していくプロセスと結果をジャンル横断的に分析した。具体的には、演劇・美術・映画それぞれを担当する研究者と芸術家が、実践で得られた成果を創作理論の構築にフィードバックしながら理論に修正を加え、それをさらに実践に適用し、翻案理論の確立をめざした[テキストの翻案 ジャンル横断的实践 観客のテキスト受容理論の構築 応用的実践 受容理論の修正 創作理論の確立へ向けた実践 翻案理論の確立]。

### 2. 研究の目的

本研究グループの主要メンバーは、村田真一(研究代表者・上智大学教授)、野中進(研究分担者・埼玉大学教授)、大平陽一(研究分担者・天理大学教授)の3名である。村田は、ロシア・ヨーロッパの演劇及びロシア文化研究を専門とし、国際学会を通し内外の研究者・芸術家と太いパイプを持ち、舞台上演にも関わっているため、翻案の理論と実践とのすり合わせという本研究の目的達成において中心的役割を担った。気鋭のスラブ文学・思想・文化研究者の野中は、主要な国際学会へ頻繁に出席し、学会やセミナーの組織者としても活躍が著しく、ロシア文化学構築をめざす野心的研究を進めており、本研究の理論的支柱となる重要なメンバーとなった。大平は、言語学・記号論に造詣が深く、ロシアとチェコの映画論・文化論の研究に長く携わっており、映像や図像の綿密な解析にとって欠くことのできない研究者だった。

また、日本の舞台上演の事例研究の一環として、海外での公演やレクチャーも頻繁に行なう観世流能楽者の河村晴久氏(重要無形文化財保持者)より、能の上演と観客の受容の問題に関し専門的知識の提供を受け、海外の舞台作品との比較対照研究を実践面から補強した。

芸術のもつ発想や世界の捉え方には、文化発展の新しいモデルを構築するうえで実り豊かな要素が豊富に含まれており、各国の文学・文化研究者と芸術家がジャンルを横断して経験を分かち合い、理論的側面を補強・修正しつつ芸術を発展させていくことには、大きな社会的意義がある。研究者・芸術家・オーガナイザーが創造的に国際協働することにより、「創作的研究」という学問分野の確立へ向けて研究を進めた。

### 3. 研究の方法

研究代表者・研究分担者・研究協力者の活動が常に密接な相互関係を維持できるよう、各自の役割分担に応じ、ワークショップ・学会参加・研究調査・取材・劇場・展覧会視察を行ない、適宜報告会を開いた。平成28年度は、上映・上演・展示を含めた文学テキストの翻案の手法的特質と理論を総論的に研究し、とくに実践への適用性に関して研究成果を国際学会やセミナーで問いかけを行ない、29年度は、映画・演劇・展覧会・書籍のイラストにおけるアダプテーションの実践状況を調査した。とくに、映画に関しては記号論の権威、舞台芸術に関しては現役の能楽者より、理論と実践の関連性について専門的知識の提供を受けた。30年度は、芸術の実践活動に応用できるような創作理論を提示し、その結果を研究成果として論集にまとめた。

そして、以下の海外の研究者・芸術家5名を研究協力者とし、文学作品をテキスト解析から

上映・上演・展示へ展開させるための理論と方法論に関して研究代表者・研究分担者・研究協力者間で討議を重ね、一般の人や生徒・大学生も参加するワークショップを開催し、創作活動に参加しながら理論の実践を行なうことをめざした。

- a. ヴェーラ・フレーブニコワ：ロシアの未来派詩人フレーブニコフの孫で、コンセプチュアリズムの実践者・間芸術性の研究者・画家として広く知られる。
- b. ヴィレム・ヴェスツテイン：オランダの現代ロシア文学研究者・『ロシア文学』誌編集長。フレーブニコフ研究者・国際学会のオーガナイザーとして世界的に知られる。
- c. イリーナ・シャートワ：ウクライナの20世紀ロシア文学研究者。ロシア・日本の研究者や芸術家と協力しながら、フレーブニコフやハルムスなどロシア詩人の国際展覧会を組織・運営している。
- d. アンドレイ・ロマーヒン：ロシアの画家・ブックデザインの専門家。
- e. ステパン・ボチーフ：ロシアの画家・彫刻家で人民芸術家。フレーブニコフの詩作品の絵画化や展覧会運営に優れた手腕をもつ。

他方、日本側研究者は、ウクライナの劇場と展覧会を視察し、芸術の実践方法に関する知見を深め、問題点を明らかにするほか、日本の事例との比較対照を行なった。

#### 4. 研究成果

芸術としての翻案の創造と受容の問題は、これまで体系的に考察されることが稀だったが、研究者と芸術家、芸術の受容者の相互関係を強め、観客や鑑賞者が芸術活動への能動的に参加し創造の担い手となり、芸術作品を素材に、アダプテーションと受容において、研究者が芸術家と連携して理論と実践の橋渡しをすることにより、テキストの生成と受容が新たな作品創作へと円環を成すよう組み立てることができた。その性質と参画者からみて、本研究は、演劇の形式を応用した「創作的研究」と呼ぶにふさわしいものとなった。

また、これまで理論と実践のすり合わせがほとんどなされない分野だったが、理論家・実践家・教育関係者が本研究に参画することにより、学術的成果や社会的効果、教育的効果があった。

研究全体の成果は、最終的に著書『アヴァンギャルドの間芸術性の詩学』（2018年、ベオグラード大学出版部）にまとめた。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 件)

〔学会発表〕(計 4 件)

1. International Seminar, Intermediation Poetics and Practice of Analysis Creation of Avant-garde Literature, Theatre, Cinema, Music, the Formative Arts/、於上智大学、2016年11月12日、村田真一(司会)、コルネリヤ・イチン、イリーナ・シャートワ他8名(発表)
2. Синъити Мурата, Славянская драматургия Нового времени, посвященная первой жене Адама: карнавальные мотивы в пьесах об Адаме и Лилит. [アダムの最初の妻を扱った新しい時代のスラブのドラマツルギー：アダムとリリスに関する戯曲のカーニバル的モチーフ] XVI Международный Съезд Славистов, Белград, Белградский университет, 村田真一(発表)、第16回国際スラヴィスト会議、於ベオグラード大学(2018年8月21日)
3. Литературный семинар: Актуальные аспекты русской литературы Нового времени [文学セミナー「新しい時代のロシア文学のアクチュアルな諸相」] Владимир Казарин, Зденек Пехал[ウラジーミル・カザーリン(ウクライナ国立タウリヤ大学学長)、ズデネク・ペハル(チェコ国立オロモウツ大学文学部長)発表]、上智大学(2018年9月16日)
4. Тень Н.Гоголя: комическое и карнавальность в драматургии М.Булгакова [「N.ゴールの影：M.ブルガーコフの戯曲におけるグロテスクとカーニバル性」(村田真一)], Once

again: «Чему смеетесь?» «Над собой смеетесь?..» - в контексте мировой литературы[もう一度:「何がおかしいのだ?」「自分で自分をあざ笑っているのだ」 世界文学の文脈の中で(野中進)] 国際ゴゴリ学会、ウクライナ国立ポルタワ教育大学、於ポルタワ(2019年4月2日)[ウェビナーによる参加]

〔図書〕(計1件)

1. Корнелия Ичин, Синьити Мурата, Ирина Шатова, Интермедиаальная поэтика авангарда, 2018, Белград, Филологический факультет, 268 стр. [コルネリヤ・イチン、村田真一、イリーナ・シャートワ編著『アヴァンギャルドの間芸術性の詩学』、2018年、ベオグラード、ベオグラード大学文学部出版、268ページ]

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年:  
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年:  
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名: 大平陽一

ローマ字氏名: OHIRA Yoichi

所属研究機関名: 天理大学

部局名: 国際文化学部

職名: 教授

研究者番号(8桁): 20169056

研究分担者

研究分担者氏名: 野中進

ローマ字氏名: NONAKA Susumu

所属研究機関名: 埼玉大学

部局名: 人文社会科学部

職名: 教授

研究者番号(8桁): 60301090

(2)研究協力者

研究協力者氏名: フレーブニコワ、ヴェーラ

ローマ字氏名： KHLEBNIKOVA, Vera

研究協力者氏名： ヴェスツテイン、ヴィレム

ローマ字氏名： WETSSTEJN, Willerm

研究協力者氏名： シャートワ、イリーナ

ローマ字氏名： SHATOVA, Irina

研究協力者氏名： ロマ ヒン、アンドレイ

ローマ字氏名： ROMAKHIN, Andrej

研究協力者氏名： ボチ エフ、ステパン

ローマ字氏名： BOTIEV, Stepan

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。